

令和四年度入学式 式辞

本日、二百九名の本科新入生、編入学する学生一名、転入学する学生一名
第三学年に入学する三名の留学生、そして専攻科入学生二十四名、あわせ
て二百三十八名を迎えて、令和四年度豊田工業高等専門学校入学式を挙行
できることを、本校教職員一同大変喜ばしく思っています。諸君、入学お
めでとう。皆さんは、我らが豊田高専を志望し、努力を重ね、入学試験に
見事合格して本日を迎えています。実力を付け、自信も湧いていることで
しょう。まずは自らを褒めてあげてください。そして、もう一つ大切なこ
と。それは、君たちの心身のコンディションを、自分のこと以上に大事に
思い、コロナとも戦ってここまでケアし見守ってくださった、親御様ある
いはさらに親戚の皆様にも、今一度深い感謝の気持ちを伝えること。直接言
葉で感謝の気持ちを表すようにしてください。
保護者の皆さまにおかれましては、ご子弟の入学、誠におめでとうござい
ます。心からお祝いを申し上げます。彼らが胸を張ってこの入学式に臨ん
でいる晴れ姿をご覧になり、感慨深いものがあるかと拝察します。今後と
も温かくご子弟の成長を見守ってあげてください。よろしくお願い申し上
げます。

さて、豊田高専は昭和三十八年に実践的、創造的技術者の早期教育を目的
として、愛知県でただ一校の五年一貫制、国立高等教育機関として設置さ
れました。創立以来伝統的に、実験実習を多く取り入れ、手足を動かした
つ考えながら課題を解決するという優れた教育を実施し、国内外から高い
評価を得ています。そして、半世紀を超えるその歴史の中で培われた本校
の特長の第一は、学生の自主性、自律性を重んじる校風であります。

KOSEN EXPO 等の研究集会、部活動やロボコンをはじめとする様々な

コンテストやプロジェクトにその一端を見出すことができます。皆さんも、一日でも早くその一員として活躍できるように願っています。

ところで皆さん、自主性・自律性はなぜ重んじられるべきなのでしょう。自主性・自律性を高めることで何が得られるのでしょうか？これは、その逆を考えると分かりやすい、と心理学者の Edward L. Deci は、彼の著書

Why we do what we do: The dynamics of personal autonomy の中で示唆しています。つまり、誰かに自分の言動をコントロールされている状況を考えてみるのです。しかも、「あれをやって」と人に言われてやったが、失敗してしまった場合を考えるとわかりやすい、と彼は言います。失敗すると、「そんなこともできないのか!」と叱られる、失望され信頼を失う。負の遺産が生まれるばかりです。

一方、自分で主体的に何かをやろうと決めたとします。この場合、やる意義がわかっていて自分がやると決めたのだから、たとえ失敗したとしても、「自分で組みあげた論理のあそこがよくなかった」と前向きになれる。再チャレンジだっただけです。自分でやるときめると、自分のためになることばかり、成功したときに自信が得られるだけでなく、たとえ失敗しても、これ乗り越えなくなるエネルギーが自ずと生まれてくるのです。

本科入学の皆さんには、この豊田高専で送る五年の間に、勉学は言うに及ばず、部活動、地域社会貢献、ボランティア活動、海外留学など、たくさんチャンスがあります。また、専攻科の皆さんには、いろいろな分野の研究を通じて、先端の科学技術や高度な社会実装のための学問を深めるチャンスがあります。しっかりと情報を集め、先生方にも相談し、親御様、先輩をはじめ周囲の方々とはよく相談して、ぜひ、そのときどきに自らの決意でターゲットを絞り、常に主体性をもって取り組んでください。

皆さん、今日からは生徒ではなく、大学生と同じ「学生」という身分となります。十五歳という早い時期から専門的な内容や実習を受けることに戸惑いを感じることもあるかと思えます。しかし、社会的な課題意識を伴って実問題を解いたり、実習を経験したりすることによって、皆さんの豊かな感受性はより強い社会貢献意欲や共感力を育みます。そして、豊田高専

で学ぶ皆さんだからこそ、個々に専門性を発揮しつつ広い見識を持ってグローバルな社会問題に対峙できるような、スケールの大きな技術者へと成長してくれる、われわれ教職員は皆そう信じています。そして、今日から皆さんを全力でバックアップし、皆さんの学修環境を守っていきます。だから、「勉強や部活、ついていけるかなあ」「心配ありません。君が努力を続けるに巡り合えます。「英語、できるようになるかなあ（溜め息）」とにかく、勇気を出して短い文章でも英語でしゃべってみよう。先の長い道のりを心配するより、昨日と比べてちょっとよくなった自分を実感し褒めてあげよう。やがて、今日の自分が、いつの間にか明日の自分を応援できるようになります。

インターネットやGPS、移动通信システムはスマートフォン端末を介して今日の私たちの情報化を支えています。既に実証実験が進行している自動運転、リニア中央新幹線、未来都市は、やがて社会の基盤を 根幹から変えることでしょう。これらは、そのときどきの夢を実現したり社会の問題に対処したりしようとする人類の叡智と努力の集積により成し遂げられました。いずれも、彼ら彼女らに繰り返し訪れたであろう失敗に決して負けることなく、日々コツコツと努力した結果成し遂げられた大偉業です。

大規模災害やグローバルな感染症拡大、深刻な少子高齢化にインターネットがもたらす人々の社会的孤立など、今日、社会の問題はますます複雑化、グローバル化しています。これらにやがて対峙すべく、君は今原点に立っています。さあ、自らの意思で一步一步力強く踏み出して行きましょう。それは、人々がやがて「ありがたい」「無くては困る」と思うような、独創的かつ偉大な技術を作り上げることになる将来の君にちゃんと繋がっていくのです。以上新入生の皆さんを心から歓迎し、私の式辞といたします。

令和四年四月五日

独立行政法人 国立高等専門学校機構

豊田工業高等専門学校長 山田陽滋